令和８年度　授業改善推進プラン

＜教科名　**数学**　＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第１学年	第２学年	第３学年
学力分析	・小学校の入学診断テストの結果、定期考査の結果などから分数の計算や四則の計算順序の正答率が低い。 ・加、減、乗、除の符号の決まり方が定着しておらず､計算間違いをする生徒が一部いる。	・１年次の正負の数の四則計算や文字式の計算に苦手意識をもっている生徒が多くいるため､２年次の式の計算や連立方程式の計算問題も苦手としている生徒が多くいる。 ・文章問題については､立式をすることが苦手である。	・全国学力学習状況調査の結果から、反比例の表から読み取る問題、累積度数の問題､箱ひげ図から読み取る問題についての正答率が全国平均より大きく下回っていることがわかった。
学習状況	･授業中は集中して取り組む生徒が多く､問題演習では学び合いをしながら問題解決をしようとする姿がみられる。 ･家庭学習の習慣を身に付けさせるために､週に１度課題を提出させており、多くの生徒が取り組めている。	・基礎計算については､毎時間数題の計算問題を解くことから授業を始めているので徐々に計算が出来る生徒が多くなってきた。 ･家庭学習の習慣を身に付けさせるために､ＩＣＴを活用しているが使用頻度の差が大きい。	・授業にとても意欲的である｡学び合い活動も活発に行っている。 ・計算問題では､単純な問題はできていても､複合問題になる手が止まる生徒が多い。 ・文章題等では､問題文の整理や必要な知識を活用し表現する力がまだ身に付いていないように感じる。
生徒アンケートの結果より	・教科書だけでなく､ワークシートや黒板に書かれた内容､ICT などの教材が工夫されていると答えた生徒が９０%あった。 ･授業が適切な速さで進められていないと感じる生徒が数名いる。	・考える時間を長くとっているため､自分で考えて答えを導きだそうとしている生徒の割合が高い。 ･学び合いの時間の設定が短いと感じている生徒が一定数いる。 ･自宅に帰ってから復習したいと思っている生徒の割合が高いので､自宅学習に結び付けたい。	・「意見交換でき、新たな気付きや発見､考えが広がったり深まったりすることがある」の項目が肯定的な意見が低かった。 ・学び合い活動など、話し合いをたくさん取り入れ､協働的な学習を主体的に取り入れ､授業後も学びたいと思える内容にしていきたい。

【授業改善の手立て】

	第１学年	第２学年	第３学年
改善計画	・教科書を使用するだけでなく、ＩＣＴを効果的に使用した授業展開を今後も行い生徒の興味を引くようにする。 ・学び合いを通して､理解出来ている生徒もさらに理解を深めさせ､クラス全体で学習が進められるような授業展開をしていく。	･基礎内容の復習時間を毎時間とることにより､理解できるので､意欲を掻き立てていく。 ・学び合いを通して､生徒自らが学びに向かう姿勢をつくり､クラス全体で学習が進められるような授業展開をしていく。	・授業の振り返りや話し合い活動（数学的な活動）を主体的に取り入れていき、授業を活性化させる。 ・ICT を適切に活用し、生徒の理解がより深まるようにする｡復習ができるように､スタディサプリを授業でも取り入れていき､家庭学習へとつなげていく。
評価方法	・週に１回の課題を出すだけでなく､授業の進度に合わせて単元テスト等を行うことで､その単元の理解度を評価する｡その評価を受けて授業の進度を工夫していく。	･解き直しの問題を実施することで意欲を持たせる。また、学び合いの授業については､感想などを書かせることで学習の定着が図れているが確認をしていく。	･学び合いや話し合いでの様子を積極的に見取り、声をかけていく。 ･定期考査の解き直しの問題を実施し、評価していく。 ･スタディサプリでの生徒一人一人の取り組み状況の確認を行う。